

ID-Gelstationおよび試験管法との反応性についての比較

多気 秀和 (京都第一赤十字病院), 中川 博子, 山本 佳世子
(京都第一赤十字病院 輸血部), 滝村 小百合, 竹下 誠治郎, 峠岡 健
野田 豊和 (京都第一赤十字病院 検査部)

【はじめに】輸血検査の標準化とヒューマンエラーの防止対策として、また、業務の効率化のため、ID-Gelstation (全自動輸血検査装置：オリンパス)を導入した。ID-Gelstationと試験管法について反応強度の比較検討を行ったので報告する。

【方法】ID-Gelstationで実施した、ABO血液型786検体のうちオモテ検査・ウラ検査のいずれかで(2+)以下の反応を示したものの、直接クームス試験を実施した48検体について陽性を示した2検体について、そして不規則抗体スクリーニング検査(パパイン2段法、LISS-クームス法)で陽性を示したものについて、試験管法(プロメリン1段法、アルブミンクームス法)で再検査を実施した。

【結果】ABO血液型：ID-Gelstationで検査したうちオモテ検査・ウラ検査で(2+)以下の反応を示したものは54検体であった(6.9%)。生後6ヶ月以下の乳児については、オモテ検査で36検体中14検体が(2+)以下の反応を示した(38.9%)。また、ID-Gelstationで非特異的反応と思われる反応がA型で3検体あった。直

接クームス試験：ID-Gelstationで2検体が陽性を示したが、試験管法による再検査では陰性であった(4.2%)。不規則抗体スクリーニング：ID-Gelstationで陽性を示した8検体のうち、5検体がクームス法で陽性を示し、その中で4検体が試験管法で陰性を示した。また、酵素法で3検体が陽性を示し、試験管法では陰性を示した。同定の結果、クームス法で陰性を示したものは、抗Jkaが4検体、酵素法で陰性を示したものは、抗Eが2検体、そして抗Gが4検体であった。

【まとめ】ID-Gelstationの、ABO血液型については、反応強度は試験管法に比べ若干弱い傾向があり、血液型の判定において考慮する必要がある。直接クームス試験については、非特異反応は比較的少なく、不規則抗体スクリーニングについては抗体の検出感度がよく、低力価抗体を検出することが可能であり、標準化および業務の効率化を図ることができると思う。

京都第一赤十字病院 輸血部 075-561-1121(内線2830)